

「出題の意図」

選抜区分	2021年度（選抜区分：総合型選抜1次試験） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：集団討論）
出題の意図 (評価のポイント)	<p>〈求める能力〉</p> <p>総合型選抜入試では、地域創生学群の取り組みへの共感性が高く、地域社会の諸課題への強い関心をもち、主体的に解決したいと考えている学生を求めている。1次選考の集団討論では、求められている課題を的確に理解し、それに応じて自分の考えを的確に表現できているか、またコミュニケーション能力の程度、課題に対する主体的関わりを試した。</p> <p>総合型選抜1次試験における集団討論では、事前に受験生に同一の課題を示しました。これは、新型コロナウイルス感染症対策の一環としてとられたものである。</p> <p>出題のねらいとしては、地域創生学群のこれまでの取り組みについて理解しているか、地域が抱える問題や社会情勢に対する基礎的な知識を持っているか、また、それに対する自らの考えや見解を有し、それらを他者との議論を通じて深めていくことができるか、ということを見定めるところにあった。</p> <p>そこで、地域創生学群に新コースを設置するという状況を想定し、グループ内で意見を一つにまとめるという作業を課した。集団討論の過程においては、上記「出題のねらい」に加え、入学後、「地域創生」の担い手としての使命感を保持しつつ、地域の方々と有意義な協働を進めていくための基本的なコミュニケーション能力を有しているか、ということを経験した。</p>

「出題の意図」

<p>選抜区分</p>	<p>2021年度 (選抜区分：総合型選抜2次試験) 地域創生学群 地域創生学類 (科目名：小論文・個別面接)</p>
<p>出題の意図(小論文) (評価のポイント)</p>	<p>〈求める能力〉 総合型選抜入試では、地域創生学群の取り組みへの共感性が高く、地域社会の諸課題への強い関心をもち、主体的に解決したいと考えている学生を求めている。2次選考の小論文では、地域創生に関する文章を読みそれを論理的にまとめる思考力を身につけているかを確認した。また、個別面接では、地域創生学群を志望する動機とともに、地域課題に主体的に関わっていく上での素地を確認した。</p> <p>〈出題の意図〉 今回の小論文試験の出題文は、地域の再生と創造(地域創生)に関連すると考えられる文章の中から、次の2点を念頭に置きながら、選定した。1点目は、今後の地域創生においては、既成の概念に囚われることなく豊かな発想力が必要と考えることから、その発想力を養う上でのヒントを得られるような文章であること、2点目は、総合型選抜試験であることを考慮して、一般的かつ平易な文章であることである。以上の2点を鑑み、今回は森博嗣(2013)『人間はいろいろな問題についてどう考えていけば良いのか』新潮新書、の該当箇所が最も適当であると判断し、出題文として選定した。</p> <p>今回の設問では本文を読み、筆者である森氏の主張をまとめる作業をしてもらった。論理的思考と抽象的思考の相違や関係性を整理した上で、抽象的思考を豊かにするために、日々思考し続けることが重要であるという点を論理的にまとめられているかが重要となっている。</p> <p>〈答案の特徴と傾向〉 基本的には、文章の流れに沿って重要なポイントを抜き出し、それらをつなぎ合わせるにより、ある程度妥当な答案を作成することができるため、難度は高くはない設問であった。</p> <p>実際に、論理的思考と抽象的思考の相違や関係性を整理し、抽象的思考の重要性とそれを豊かにする方法について論理的に説明できている答案もあり、このような答案には高い得点をつけている。しかし一方で、論理的思考と抽象的思考の相違のみに言及している答案や、抽象的土壌を豊かにする方法を詳述に論じてはいるが、なぜ抽象的思考の土壌を豊かにする必要があるのかに言及していない答案が見受けられた。それらについては評価を下げている。</p>